

サーキット・ライダー 2004年11月号

子は親の背を見て育つ

わが子よ、わたしの教えをわすれるな。わたしの戒めを心に納めよ。そうすれば、命の年月、生涯の日々は増し、平和が与えられるであろう。慈しみとまことがあなたを離れないようにせよ。それらを首に結び心の中の板に書き記すがよい。そうすれば、神と人の目に好意を得、成功するであろう。箴言 3：1－4.

10月にウエスト・チェスター・ユニオン教会のご好意で、靱井梅子牧師をお迎えし家庭集会を持つことができました。この場をお借りし、靱井先生ご夫妻、浅田先生とユニオン教会の皆様、家庭を提供下さいました荒美俊三兄、和子姉に心より感謝いたします。集会の折に靱井先生がお父上、賀川豊彦牧師（昭和初期から第二次大戦後にかけて活動したアジアの大伝道者、社会活動家）について、またご自分のことについて「若い頃は著名な父に随分と反発したが、今になってみると、自分も同じことをしている。{子は親の背を見て育つ}とはよく言ったものだ。」とお証下さいました。奇しくも私も近頃、同じことを考えておりましたので、興味深く先生のお話をうかがいました。

靱井先生が子供の頃、また私が子供の頃も「子供は親に従うもの」だったのですが、近頃は親が子に従っている姿を良く見かけます。アメリカ人の親子を見ていると「週、月、季節、年間スケジュールを子供に合わせて立てているのでは？」と訝しくなります。取分け私が齒がゆく思うことがあります。定期的の中一の子達と親に働きかけてユース（中高生会）をするのですが、3年目でいつも終わってしまいます。と言いますのも高校生になると、途端にフットボール、サッカー、野球、ブラスバンド、ガールスカウト、ボーイスカウト、チェアリーダーなど等を理由に来なくなるからです。まだ日本のように塾が無いだけマシかもしれませんが、バスや電車が便利に走っていない郊外の町では、親が子供たちの送迎をします。ですから親は始終子供の送迎に追われます。一人っ子でも相当大変ですが、兄弟姉妹がいるとなお大変。加えてほとんどの家が夫婦共働きなので、休む間もない忙しさです。土曜日「フットボールの試合だ。」「陸上の記録会だ。」と潰れ、主の聖日である日曜日は教会に行く気力も無く、家族の日＝寝て曜日です。

私が子供の頃は、週休2日制などは夢のまた夢でしたから、子供たちのプログラム、野球、ボーイスカウトなどは全部日曜日に行われていました。また運動会や授業参観等の学校行事もともすれば日曜日にありました。学校行事は休むと欠席扱いにされてしまいましたので、一応、出席しましたが、当然、私の親は礼拝がありましたので日曜授業参観には来ませんでした。運動会も来れるとしても午後からと、限られた時間の中ででした。野球やボーイスカウトなどは当然入ることは許されませんでした。正直、ボーイスカウトの制服を着た友達やおそろいのユニフォームを着て野球の試合に出ていた友人が羨ましく思えた時期もありました。しかし、今にして思うと、私の両親や多くのクリスチャンの親たちは、例え子供に多少つまらない思いをさせても「それよりももっと大切なもの、大事な事がある。」と教えてくれたのだと思います。昨今、子供たちの我儘を何でも聞くのが自由な教育と履き違えている方が多いように思います。野球やボーイスカウトは楽しいし、協力することや努力する精神を養ってくれますので全く無意味とは思いません。しかし今、人生の半ばになって本当に日々の生活を導き、迷った時に教訓を与え、哀しい時、辛い時に励ましてくれたのは神の言葉であると確信しています。

本当に大切なのは「魂、心の救い」です。それを子供たちに身をもって示すのが親ではないでしょうか。一つの例を挙げます。皆さんは旅行で飛行機に乗ることがおありかと思います。フライト・アテンダントの注意の一つに、緊急時に酸素マスクが降りてくる説明があります。事故や故障など危険な状況に親子（特に幼い子供を持つ親）で遭遇した場合、自動的に下りて来る酸素マスクをどちらが先に付けるかご存知でしょうか？まず親が先にマスクを付け、その後子供に付けるのですが、とにかく「子供可愛いや」と子供を優先する傾向がありますが、そうすると自分が酸素不足になり倒れてしまい、ひいては子供も逃げられなくなります。「まず自分がマスクを付け、それから子供に付ける。」これが基本です。信仰も同じ。まず自分の身を正し、子供にそれを見せる。それで初めて子供にも聖書や讃美を教えられるというものです。親が聖書も読まなければお祈りもしないで、どうして子供に聖書を教えたり、教会に行くことを勧められるのでしょうか？「親の背を見て子供は育つ」を心に刻み、まずは自分の信仰の姿勢を問う。そこから家族、家庭の信仰生活が始まるのではないのでしょうか。

吉松 純

- * 礼拝：午後 4 時。Jr.教会（教会学校）：午後 4 時時、礼拝に出席後、分級に進みます。
- * 祈られたい方の為に礼拝堂を午後 3 時 3 0 分より開放しています。どうぞご利用ください。
- * 聖日予定：

- 1 1 月 7 日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝、聖餐式。
- 1 4 日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝、説教：ゲスト・スピーカー立石尚志牧師、司会、荒美俊三兄。
フード・ドライブ開始。
- 2 1 日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝。礼拝後、午後 7 時より、ベス・シャローム・ユダヤ教寺院にてエキュメニカル感謝祭礼拝。
- 2 5 日：感謝祭。午後 6 時、日本語チャペルにて感謝祭礼拝。礼拝後ラウンジにて持ち寄りで祝会。
- 2 8 日：自由祈禱会、Jr.教会、礼拝、司会：荒美和子姉。アドベント初日。
- 1 2 月 5 日：礼拝午後 3 時より。礼拝後、午後御 4 時よりグリーンング教会飾りつけ。午後 6 時より簡易夕食会。

* 1 1 月 1 4 日（日）吉松牧師は研修会に参加し留守になります。聖日礼拝はグリニチ日本語福音教会の立石尚志（ひさし）牧師が司式して下さいます。立石牧師に心より感謝いたします。

* 集会、行事予定と報告

4 日（土）午前 1 0 時から午後 3 時まで、教会ジムにてバザー。皆様の協力が必要です。当日のみでなく、前週から毎日準備の為人手が必要です。お手伝いくださる方は吉松牧師まで。

1 9 日（金）午後 7 時 3 0 分より、聖書研究会、日本語オフィス。*水から変更になりました。

2 5 日（木）午後 6 時より。感謝祭礼拝と持ち寄り祝会。詳細は別便をご覧ください。

* 1 1 月は感謝祭など特別行事優先の為、この他の集会は休会となります。御了承ください。

* パークリッジ合同メソジスト教会創設者マリオン・ブリスコー氏の思い出、A Walk with God が出版されました。御希望される方は、送料、梱包代として 5 ドル（アメリカ国内値段。日本への送料は若干上がります。）でお送りしています。チェックの宛名を PRUMC とし教会にお送り下さい。

* 御協力お願い致します。献金の宛名は UMC-JA でお願ひします。

* 感謝祭献金をお願いします。日本語ミニストリーの伝道活動に遣います。

* 新潟中越地震の被災者の方々への救援献金をお願いします。現地の教会を通して被災者の方へ送ります。

* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

* 使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り 1 センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（J O C S）に送ります。J O C S は切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

* H O P E（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先を H O P E としてください。

* 昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（2 0 1）3 9 1－5 4 9 9 日本語及びファックス（2 0 1）5 0 5－0 3 4 7

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（2 0 1）3 9 1－2 2 0 8 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉（2 0 1）8 0 2－1 7 6 9 takae723@hotmail.com